

講評：審査委員長 山形県教育センター指導主事 布施弘好

〔はじめに〕

今年度の「川をきれいにする児童図画コンクール」には、県内29市町村の126の小学校から、ポスターの部に1,725点、川景の部に724点、合計2,449点の応募がありました。平成4年度から始まりましたこのコンクールは、今回で30回目を迎え、県内で開催されている小学生対象の絵画やポスター募集の中でも大規模なものとなっています。これは、山形県の小学生の皆さんが真剣に川を大切に考えている表れだと思います。このように沢山の絵やポスターを一生懸命に描いてくれたことは大変うれしく、川に対する思いが広がり、定着していることは、本当に素晴らしいことだと思っています。



〔川への思いを大切に〕

皆さんの、山形県の川を大切にしたいと思う気持ちから、たくさんの素晴らしい作品が生まれました。元気よくいきいきと感動や思いが描かれた作品、丁寧に時間をかけて表現された作品、見る人に川への思いを共有させる作品など、数多くの作品と出会うことができました。

ポスターの部では「ふるさとのきれいな川を残したい」というメッセージが強く伝わる作品、川景の部では実際に川に行き受けた印象や思い出から自分で見つけ出した川への愛着が感じられる作品が多く、どちらの部門も、きれいな川を大切に思う皆さんだからこそ生み出された作品ばかりでした。

〔出品者の皆さんへ〕

このコンクールの2つの部門について触れたいと思います。1つ目は「ポスター」部門で、自分が描いたポスターを見てくれた人に対して「川をきれいに」と伝えるには、どのようなイラストや標語がふさわしいのかをいくつか考え、その中から一番ふさわしいものを選んで取り組んでみましょう。2つ目は「川景」部門で、自身が川で遊んだ思い出やその時の気持ち、川の景色や生物などを実際に見て感じたことから、自分自身の「きれいな川」の絵を描いてみましょう。

どちらの部門も、自分らしさを大切に、楽しく工夫しながら元気いっぱい描いてみてください。作品を完成させるまでには、悩みや苦労が連続します。しかし、自分を信じ自分の力だけで乗り越えていくことが、ポスターや絵を描く面白さでもあります。チャレンジしながら素敵な作品をどんどん描いてみてください。

〔指導される方へのお願い〕

以下に指導される方（学校の先生や保護者の皆さん）へのお願いをいくつか記します。

- ① 子どもさんの作品は本人自身のものです。活動の際は、テーマ（どちらの部門にするのかも含めて）や製作に関わる支援は必要ですが、「これはこう描くんだよ」「こうしないとだめだよ」といった指示や手直しは避け、それぞれの個性や発達段階に応じて、他の子どもさんとは比べたり一様な技能は求めたりせず、その子どもさんの「得意技」で取り組ませてください。

- 
- ② 描き始める前に川に対する思いをふくらませるための時間をじっくり取り、描きながら自分の思いや表し方を探究していくプロセスを大切にしてください。安易に出来合いのアイデアの模倣はさせず、自分で工夫したオリジナルの作品になるようご指導ください。感じることは絵が描けることより大切なことです。日々の生活の中で自ら感じ、考えるための様々な体験をさせてくださるようお願いいたします。
- ③ 子どもさんにとって、表したものを受け止めてくれる人がそばにいることは一番の応援になります。また、自分の思いを安心して外に表現できることが自信と自己肯定感につながります。子どもさんの考えや感じたことをそのまま受け止め、表現に共感する心と愛情をもって、楽しく対話を重ねていって頂ければと思います。

〔さいごに〕

たくさんある皆さんの素晴らしい作品から賞を決めるのは大変なことでした。審査は「上手さ」の順位を決めることではありません。誰かに今回の「代表」になってもらう、ということであり、皆さん一人一人が特別で、特別賞なのです。その作品を大切に飾り、そして次の作品に取り組んでいってください。それでは今年度の受賞作品（皆さんの中の代表）を改めて見てみましょう。

ポスターの部で特選を受賞した千葉あかりさんの作品は、雄大な川に飛び込もうとする後ろ姿からのアングルが印象的で、きれいな川に飛び込んだ経験、または飛び込みたくなるようなきれいな川を見た経験から作品のアイデアが生まれたように感じます。勢いよく飛び込むスピード感を、色や筆の方向で表し、川や山の色は絵の具を重ねながら、爽やかな色合いに仕上がっています。「キレイな川であそびたい」という標語も、縁の色を白や黒にして読みやすくし、「キレイ」や「川」の文字にも工夫がみられます。画面全体から、いつまでも遊べるきれいな川にしていきたいという思いや願いが伝わってくるポスターです。

川景の部で特選を受賞した田井地雄介さんの作品は、川遊びに友達といった時の思い出を描いてくれたように感じます。両足の間から顔が見える構図で、川の中に入ってカニを見つけたときの驚きが表情から伝わってきます。他の二人の視線や体の動きからも川の中のカニに注目していることがわかります。石の色、カニの甲羅やハサミの色の違いなどを見つけて、丁寧に色をのせています。涸れた川の色合いから、子どもたちの足も住んでいるカニもとても気持ちよさそうです。このきれいな川で、来年も友達とカニや他の多くの生物などを探して、そのときの感動や思い出を描いてみてください。

どちらの作品も作者の独自の視点が活かされています。皆さんも伝えたいことや感じたことを、自分の目線や感覚で、のびのびと表してみてください。

今年度も、「川をきれいにする児童図画コンクール」は、応募された皆さんの川への思いがたくさん詰まったものになりました。ぜひ皆さんの心の中の「山形県の川をもっときれいにしたい」という思いをさらに大きく育て、次の世代までつなげていってほしいと願っています。